

みなさんお元気ですか。

新しい一年、2023 年が始る。ご笑覧ください。



1月5日

1月4日にニカラグアを旅立った。アメリカシアトル経由で日本に帰ることになり、シアトルを離陸した JAL の機内でこの記事を書いている。

ニカラグア、合衆国と移動している途中、いつもカルチャーショックを感じる。デコボコ道をおんぼろ車が走り、塗装のはげた家並みを見ながら、自宅からニカラグア空港に着く。この空港ロビーには、この国の富裕層の人たちだけが海外に旅立つといった感じだ。信号機のある十字路でいつも自動車の窓ガラスを拭いて、その日の生業としている人たちには縁のない場所だ。昨日は、ミスニカラグアに出会った。マイアミまで一緒に飛行機だ。ロビーで待っている他のお客さんとの写真撮影に心よく応えていた。彼女もニカラグア人かとは全く想像できない。どういう環境で育ったのだろうか。



午後5時ごろマイアミ空港についた。滑走路に近づく飛行機から外の景色を見ているとなぜかホットする。整然とした街並み。真っすぐ伸びる道路、都会にきた。なぜかうれしくなる。ニカラグアも緑の草原が広いのだが、やっぱりアメリカは違う。イミグレーションは、想像以上に大勢の人だった。Baggage claim で自分の荷物を受け取り、つぎに目的地のサービスカウンターで、また荷物を預けた。広い空港を迷わないように用心しながら、目的地のシアトル行きのゲートに何とかたどり着いた。

マイアミからシアトルまでの搭乗時間は、約6時間。エコノミークラスの客席は本当に狭くて、各座席頭部の背面には、ディスプレイではなく、スマホの設置場所となっていた。乗客は、自分のスマホを手前の席のスマホ置き場に置いて、スマホにダウンロードした動画を見ていた。機内も変わったなあ、と感じた。



シアトルについたのは、翌日の深夜1時ごろだった。いつものように **Baggage claim** に荷物を取にいった。待てども待てども私の荷物はでてこない。クレームサービス室に行って、問い合わせたら、私の荷物は、JALカウンターに移動されている。ここにはない。JALのカウンターはどこかと尋ねたら、知らない、との返事だった。諦めた。

空港の近くのホテルを予約しておいた。シャトルバスが空港まで迎えに来てくれることになっている。電話するにしても私の携帯で繋がらない。ホテルに電話しているのだが、途中で切れてしまう。仕方なくシャトルバス停まで深夜歩いた。少し不安だった。バス停についたら、備え付けの電話があった。掲示板に表示されているとおりにダイヤルしたら、予約しておいたホテルがでた。そして、迎えに行くといってくれた。意外と簡単にうまく行ったので、ホッとした。この時点で午前2時ごろだった。



ホテルに着いた。カウンターで、チェックインして私の名前を言ったらリストにならない、とのこと。私のクレジットカード番号を見せたら、本人だと分かったらしい。私の名前は、別名。ただし、ニカラグアから来るという情報だけが表示されていた。しかし、何とか予約していた部屋に入った。早速シャワーを浴びようと思って、シャワーの蛇口をひねったが、全く水はでなかった。蛇口のレバーを右にも左にも回したのだが、全く水はでない。今度は、蛇口を手前に強く引っ張ったのだが、全く動かない。壊してしまっただけだと思いきや、これも諦めた。その夜は、着替えなしでそのままズボンを履いたままベッドに入った。ホテルは、キングサイズのベッドと大型のテレビ、金庫、冷蔵庫などがった。私の一番欲しかったのは、コーヒーや紅茶のセットとポットだった。しかし、それはない。部屋はだあだった広いが、他によいことはない。一泊\$110。たかあ〜。



昨日の夕食は、空港のコンビニで買ったサラダだけだった。
今朝は、早めに空港に行ってチェックインを済ませた。私の荷物は無事に成田空港に行く手配はついているとボーディングカウンターで確認した。安心した。

近くにあるフードコートに行って、**Seated court** と看板のあるチョットいい雰囲気
でウェイターもいる方に入った。そこで、アメリカ特有の洋皿いっぱい盛られるオム
レツ、固いベーコン、ハッシュドポテトを想像して、注文した。テーブルに出され
た料理をみて、がっかりした。なんかちがった。値段も\$24だった。これも日本円
に換算するとかなり高い。物価が上がったのだなあ。他の人を見ていたが、だれもチ
ップを置いておかない。そして、クレジットカードで支払っている。私は、少しチ
ップをおいたら、ウェイタレスは喜んだが、それ以上は何も言わなかった。チップはみ
んなどうしているのだろうか。



もう一つ気づいたことは、ウェイタレスに高齢者が多いこと。フィリピン系の人
が多いように思えた。また、深夜に働いていた人たちもどうもネイティブな人は余りいな
いように思えた。皆一生懸命働いているようだけど、言葉は、ブローケンイングリッ
シュだ。動作も何か、違う。ちゃんとした教育や訓練を受けてないように思えてなら
ない。アメリカの文化も何か変わってきている気がする。

米国西北のシアトル特特の曇りが多い気候のせいかな、それとも時代なのか、景気
のせいなのか、1980年代にシアトルに来たときの思い出とは何か違っている。人も変わ
ったように思える。まあ、あれから40年も経っているのだから、違うのは当たり前
か。日本も変わっているのだろうか。我が国にずっといるとその変化が実感できな
いのかも。



1月6日

無事、日本に帰ってこられた。

成田空港では、税関通過の前に、早速 **Visit Japan Web** での登録が完了されているかどうか、個人のスマホのチェックから始まった。私は、出国前にこのサイトに登録していたが、未完成のままだった。そしてそのまま放置していたことをすっかり忘れていた。そして、この場所に来て、空港の担当者のアドバイスを受けながらこのサイトを設定し直した。登録した **QR** コードが私のスマホにも表示された。担当者がその **QR** コードを読み込んで、無事にコロナの検問は終わった。後は、イミグレーションでの自動認識ゲートを通り、パスポートを見せて、スーツケースのチェックもなく空港を出ることができた。そして、成田エクスプレスで自宅まで帰った。フウ。。



1月8日

妻と一緒に、湯河原で1泊旅行した。今週は、3連休で、成人の祝日でもあった。

久々に新鮮な魚が食べられた。また、温泉にも入れた。

泊まった旅館は、奥湯河原。すこしさびれた感じの温泉街にあった。旅館のそばを流れる川の音。昼下がりの冬の澄んだ青空。鳥のさえずり。やっぱり日本はいいや。

旅館は、宿は古い料理が売り。と言うだけあって、夕飯は豪華であった。刺身、しゃぶしゃぶ、釜めし、豆腐、大根煮込み、一人では食べきれないほどの量、しかも非常においしい。さすが料理が売りだけある。

食後は、入浴。二人しか入ることができない小さな湯舟。かけ流しの温泉。

気持ちいいね。また、来たくなった。



1月9日

帰りは、湯河原の膜山公園に行った。ここは、山一面、梅が植わっている。まだつぼみもついてない。しかし、ほんの数本がぼつぼつと咲いていた。

不思議なことに、この公園の駐車所は、満車であった。梅を見に来ている客はほとんどいない。草刈りをしている作業員の草刈り機の音だけが響く。すこし小路を上っていったら、広大な岩壁に出くわした。そして、そこで大勢の若者がロッククライミングをしていた。驚いたことに女性も岩登りをしていた。これで、駐車場の満車のなぞが解けた。ここは、梅園だけど、ロッククライミング場でもあることが分かった。

ニカラグアにはいないきれいな鳥もいっぱい見ることができた。もっとじっくり眺めていたい。梅が満開になる時期にもう一回来たいな。





帰りに小田原に寄った。小田原城近くのお城通りにある立体駐車場に車と留めた。駐車場から人の流れに合わせて歩いていたら、江戸の時代劇にできそうな作りの建物を見つけた。そこはショッピングモールで、おしゃれな感じのカフェや土産物店が軒を並べていた。昼間のポカポカ陽気で、モールの広場では多くの人がゆったりとした時間を過ごしているようだった。私たちのお土産の干物を買って、コーヒーと大判焼をテイクアウトして、広場のテーブルで食べた。

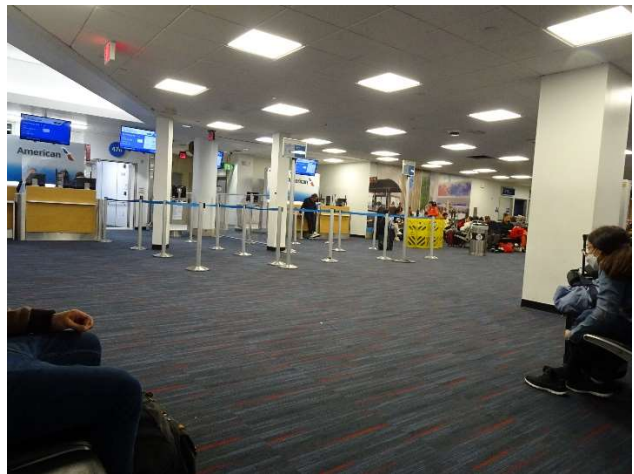
この日は成人式の祝日でもあったので、成人式を迎えた着物姿の女性も多くみられた。このショッピングモールには14階建のビルが隣接していて、最上階には足湯が楽しめる場所があったので、行ってみた。大勢の大人や子供が足湯の周りに座って湯につかっていた。私たちは、小田原城や遠くの山や海を見て楽しんだ。





1月14日

ニカラグアへ出国。チョッと事件が。
成田空港についた。JALカウンターでボーディングチケットを貰うために、カウンターに行った。そこで、気が付いた。チケット予約表と一緒に挟んでいた4回目ワクチン接種表がない。どこかで落としてしまったのか。かろうじて3回目接種証明書は持っていたので、米国へは問題なかった。つぎは、米国からニカラグアに入国するためには、接種証明書が必要とのこと。カウンターのスタッフが一生懸命インターネットで必要かどうかを調べてくれた。なかなか見つからなかったため4時すぎまでかった。私の搭乗時間は、4時45分。余り時間がない。しかし、接種証明書は必要だ。カウンターのスタッフからは、落とし物預かり所に行って確認してください、ということで、チェックアウトは完了した。



そういえば、来る途中にインフォメーション窓口1階に立ち寄ったことを思い出した。そして、そこに行って尋ねた。良かった！。私の接種証明書を預かってくれた。助かった。一時は、書類不十分で出国できないのか、と心配した。
また、3階まで戻って、保安検査所まで行った。30メートルくらいの行列ができていた。どうしよう。乗れなかったら。行列はじわりじわり前に進んだ。検査場を通り越し、税関所も無事通りぬけた。そして、搭乗口には、10分くらい前につくことができた。ああ、助かった。やっぱり、落とし物預かり所には行ってみるものだ、とつくづく思った。日本の空港では、ちゃんと保管してくれている。このようなサービスは素晴らしい。多分よその国では決してこうはいかないだろう。いい国に生まれてよかった。日本は、成熟した国で、決して衰退していく国ではない。カスタマーサービス、安全面のランキングでは、世界一だと自信をもって言える。